

広 報

ちば市老連

VOL.20
2004.3



- さわやかな風を.....狩野 喜美
- 輝く人・かがやく地域
- 地域はわれらが母船.....佐藤 吉司
- 笑いとおしみと.....大澤 良之
- 芸能大会.....内藤 正子
- 仲良しボランティア.....廣居かつ子
- いやしのある老人クラブで
- 輝いて生きたい.....小関 澄子
- 第一和楽会のスポーツ.....池端 照男
- 指導者研修会.....教 養 部
- 女性リーダー研修会.....山田 玉枝
- 宮崎に集う全国の仲間.....広 報 部
- 事務局だより
- 千葉大会を成功させよう
- 文芸



社団法人 千葉市老人クラブ連合会



さわやかな風を――

千葉県老連女性委員長 狩野喜美

冬来たりなば春遠からじ。季節のうつろいを感じられる今日此頃ですが、時の流れの早さに追われる日々でもあります。

平成14年2月23日、前委員長久力スイ様が他界されて間もなく三回忌がめぐってまいります。大きな足跡を残された久力前委員長の後任として、未だ日も浅く重い荷物を背負って時には押し潰されそうになりながらも、皆さんに支えられ何とか三年目の活動に入ることが出来ました。

昨年12月17日、18日の二日間、全老連の女性委員会設立10周年記念行事が霞が関灘尾ホールで開催されました。

「21世紀のさわやかな風になる」式典のテーマは、参加から参画への道を拓く女性委員会にとって、和やかな中にも感動と勇気を与えてくれるものでした。

千葉市老連は、昭和48年婦人部を設立し、平成9年4月、女性委員会に改名して結



全老連女性委員会10年のあゆみ

女性委員会が設立されてから10年、さわやかな風になるテーマが躍動するような会場は感動と充実感いっぱい。参加から参画へ再出発にふさわしい式典となった。

成を改たにしました。全老連初代女性委員長のお膝元として早くから準備をすめ、会員増強を重点目標に活動に入りました。何事もそうですが特に会員増強は実態の把握と分析が大切な要素であることは申し上げるまでもありません。私たちは未加入者の男女別、年齢別調査のため市、

区役所の統計課や民生委員等の協力をお願いしながら、地域毎の実態調査表の作成に取りくみました。慣れない数字と統計は大変な作業でしたが、委員の皆さんの見事な連携によって成し遂げられたことは貴重な体験になりました。

これからのクラブづくり、クラブの活性化は、女性委員会の実践活動が大きな要になることは言うまでもありません。情報交換、意見発表を土台に、あせらず地道に努力し積み重ねていきたいと思っています。

現在市老連が抱える課題は「脱会、解散」への対応です。女性委員会として女性のもつ「ねばりと根気」をもって魅力のあるクラブづくりに爽やかな風をおくりたいと思います。

今年11月には全老連の全国大会が千葉を舞台に開催されます。千葉市老連は県老連と手を携えて全国から集まる二千の仲間と交流し、輝いて生きる高齢者に新しい風を吹かせたいと願っております。県も市も全面バックアップされるでしょう。みんなで頑張りましょう。



エライヤッチャ エライヤッチャ
ヨイヨイ ヨイ (わいわい連のみなさん)

やすいよ うまいよ 夏祭りジャガバタ店



ひまわりの会にとって、地域の行事への参加は、大切な、又楽しい一部となっています。

例えば、毎年八月の磯辺夏祭りには、会を挙げて参加します。

会の踊りサークル「わいわい連」は、盆踊りの輪の中心になって踊ります。会では、ほかほかジャガバターの店や、フリーマーケット、花苗の店などを出して祭りに賑わいをそえています。たくさん仕入れたジャガ薯を全部蒸し上げて完売した時の嬉しさは、感動ものです。会では、会員用の席を用意し、大勢の会員がビールなどを楽しみながら、広場一杯の人たちとのお

地域はわれらが母船

美浜区老連 ひまわりの会

祭りを楽しめます。町の人たちと会との連帯感が強まるのを感じます。

そのほか、秋の磯辺大運動会、コミュニティセンターの祭りなどは勿論、防災訓練会や防犯活動など、地域の行事や活動にも積極的に参加するよう心掛けています。町内の餅つき会では、元気なご同輩方が「昔とった杵づか」で餅つきをする光景も微笑ましいものです。

町内自治会をはじめ、地域の皆さんが、わが会を「頼りになる身内」と感じて貰えれば最高と思っています。そうなって貰えれば、多分、会の先細りを防ぐ妙薬になるのではないかと思います。

(ひまわりの会々長 佐藤吉司)

笑いと、楽しめと

若葉区都賀地区老連

「ナイス・ショット!」「ナイス・バーディー!」朝からとても高齢者とは思えない、威勢のよい掛け声が、公園のグラウンド一杯に響きわたる、私たち都賀の台シルヴァークラブのグラウンドゴルフ大会は、都賀の台中央公園で開催されます。

この競技は、大変意外性の高いスポーツで、誰にでも優勝のチャンスがあるので、皆んな真剣そのものですが、いつも笑いが絶えないのも特徴の一つです。

何よりも楽しいのが、試合終了後の表彰式を兼ねての懇親会。自慢話・失敗談それにカラオケ、日頃の憂さを吹き飛ばしてくれるのです。

この大会はすでに十数年の歴史を持ち、最近では年に四回開催されますが、参加者数も男女あわせて三〇名前後と、年々盛大になり、私たちシルヴァークラブの重要な年中行事の一つに

なっています。

従って、大会に備えての練習にも、大変な熱が入ります。暑い日も寒い日も、毎週月・水・金の朝九時から、「お早う!」「お早う!」とグラウンドに集合し、四ラウンドをこなしています。

その結果、会員の技量もメキメキ上達して、毎月開催されている千葉市グラウンドゴルフ協会の大会でも、毎回のように入賞者が出ています。

また、都賀の台小学校がクラブ活動の一科目として採りあげている、「グラウンドゴルフ教室」にも毎回指導員を派遣して、大変喜ばれています。

何よりも嬉しいのは、グラウンドゴルフの大会や練習会を通じて、

一、地域の人々との繋がりが深まり、その輪がだんだんと大きくなる。

二、心身ともに健康になれる。

三、充実したシルヴァーライフを満喫できる。

私たちの町内には、数百人を超えるシルヴァー世代が暮らしています。人それぞれに生き方があり、それぞれの健康状態・家庭事情もあるわけですから、一律には言えませんが、出来れば一人でも多く、お仲間になってくれればと心から希っています。

都賀の台シルヴァークラブ

大澤良之



芸能大会

花見川区ではじ地区老連

【はじめに】

千葉市老人クラブ連合会では、年に一度芸能大会を催します。この大会には地区老連・区老連と厳選なる審査を経て、優秀な成績を修めた「一種目」だけが地区代表として参加出場出来るのです。この頂点に輝くのは『市長賞』この賞は市老連会員の憧れです。第二十四回千葉市老人クラブ会員芸能大会（平成十五年十月八日）には、こてはし地区代表として「音楽劇・思い出の記」にて出場。見事『市長賞』受賞の栄に輝きました。この五年間で二度の『市長賞』受賞の栄によくしたことは、こてはし地区最大の誇りです。

【演じる】

芸能とは、辞書にもあるように「映画・演劇など、大衆的娯楽の総称」です。こてはし地区は、演じるにあたり企画を立てます。特に担当者は、マンネリ化しないように配慮し、一番苦労するところが

この企画です。企画がみつまると、次に

構成↓配役と進みます。配役を決める段階になって初めて、地区連会長・各クラブ会長・女性部長、そして会員を集め、企画・構成を説明。全員の了承を得、ようやく「芸能大会」に向かっての第一歩が始まるのです。演じる劇中には、地区会員、全員参加が私達の目標です。何故ならこうして集うことによって友情・友愛の精神を尚一層強く深めることが出来るからです。（市の芸能大会には、諸事情を考慮し出演者は二十名以下という規約があり、出演出来ない人もでき毎年残念に思っております。）衣装は、各自、家にあるものを使用、無い人は互いに貸し合い、小物・小道具等は、総て廃物利用し、手作り。出費は極力避けています。男だから、女だからではなく、全会員一体となって「演じる楽しさ」があつてこそ見ている人を引きつけ、面白さに笑いを誘い、時には驚嘆させ意外性を多分に

見出して頂けるのだと信じ、演じる人、夫々の個性を大切に活かしながら練習に励みます。今年もその成果、結果を楽しみに…

【終わりに】

この、市老連主催による「芸能大会」は、私達に幾多の「学ぶ」ことのチャンスを与えてくださいました。最たることは、「男女参画のクラブづくり」に就いてではなかったでしょうか。地区連会長を初め、各クラブ会長、女性部長そして全会員が集い、和気相合と楽しみながら語り合い、芸能談義に花を咲かせながら互いに信頼、尊敬の度合いを深めつつ「男女参画」の基礎を築けたのは「千葉市老人クラブ会員芸能大会」があつたればこそ、心より感謝致しますと共に、市老連の掲げる五つの柱の一つとしての「健康づくり」にも、大会の練習を通して、多に役立っていると思つて居ります。

何事も勉強です。その中から一つでも何かを探し出せたらいいですね、これからも明るい未来に向かって前進有るのみです。互いに努力いたしましょう。

市老連 芸能大会に 拍手！

（こてはし地区老連 内藤正子）

仲良し ボランティア

稲毛区老人クラブ連合会



特養ソレイユ
—入居者の方々と—



轟保育所の地域交流会

稲毛区老連の女性委員長だった頃の狩野喜美さんが、平成九年一月特別養護老人ホームのボランティアに関心をもちはじめたのが発端で、地区老連別の当番制による日程表に基づいて毎月つづき今日を迎えています。対象は稲毛区長沼原の特別養護老人ホーム・ソレイユ千葉北です。

毎週月曜と木曜の午前九時から午後三時まで、入浴、食事のお手伝い、洗濯物の整理、入浴後の髪の毛のドライヤーがけなどが主な仕事です。以前は金曜日にシートツ交換もやっていましたが現在はしていません。

初めて行った頃は驚いたことに誰も口を開けなかったのです。私達は入居者の方達になんとか口を開いてもらいたいと、訪問するたびにお話を仕向けたり、それなりの努力をしていました。その甲斐があつてか、たった一言ですが「ありがとう」の言葉を聞くようになりました。

「〇〇さん、きれいになりましたよ。お若い頃はきれいだったでしょうね」と優しく声をかけるとニッコリ笑うようにもなりました。本人は何もわからなくても女ですね。キレイという言葉はわかるのです。その時は思わず

ホロリとしました。友愛活動は心と右の手、左の手で行うものだと思います。

お手伝いの仕事をとおして、車椅子の扱い方、寝たきりのシートツ交換の順序、トイレの座り方、靴下の履かせ方なども覚え、男と女の対応の違いも勉強になりました。

私達はみんな仲良しボランティアとして心を開いて明るく働いています。

仲良しと言えば保育所や小学校の低学年生との交流があります。轟保育所の場合は年間五回の地域交流会がありますが、その日が近づくと保母さんに連れられた十五、六人の幼い子供達が家の玄関口に来て「おまちします」と可愛い声で合唱するように言い、色鉛筆で書いた招待状をくれます。

小学校とは伝承遊びや運動会の輪踊りなどを実施していますが、何年も前に一緒に遊んだ子が高学年になった今でも道端で逢うと、きちんと挨拶し「重いものは持っていきます」という。うれしいことですね。

これからも健康である限り、明るく、やさしく、仲よしボランティアをつづけていきたいと思っています。

(六川地区老連 廣居かつ子)

いやしのある老人クラブで 輝いて生きたい

緑区女性委員長 小関 澄子

しいかぎりです。

「変わらなきや老人クラブ」朝日新聞の社説に掲載された記事は、会員減少でクラブが危機的存亡にある各老連に少なからず、何等かの影響を与えたと思います。

全老連四十周年という歳月は重い。

現在活躍するリーダーの平均年齢は何歳でしょうか。誉田地区連の女性会員数は五四〇人。年齢構成をみますと、六十歳未満三人、六十代九十七人、七十代二三〇人、八十歳以上が二一〇人です。そのうち前期高齢者は一八四人、後期高齢者（七十五歳以上）は、三五六人です。十年後には、ベビーブーム時代の人達が前期高齢者となります。超高齢社会の入口が形成されるのです。

後期高齢者が圧倒的に多い誉田地区連十八クラブのなかで、前期高齢者が多く、男女会員のバランスもよくとれ、はつらつと活動に取り組んでいるクラブがあります。戸建ちの団地内のクラブですが、後期高齢者の多いクラブからみれば羨ま

しいかぎりです。リーダーを失い、運営が行きづまり、高齢会員の唯一の心のよりどころを、探しあぐねているクラブに良薬は本当になのでしょうか。

地区女性委員会の中に、公民館で毎月三回、民踊、レクダンスの練習の場「こ



踊る「こすもす会」のみなさん

すもす会」があります。

結成して十年常時四十名の会員が集まりますが、そのなかには九十歳の会員が二名バスを乗り継いで通っています。

二泊三日のおたのしみ旅行は毎年二月に行っていますが、今年も塩原で一日二晩、唄って踊って、仲居さんがびっくりする程楽しく過ごすことができました。

赤い服も似合う、口紅もさす、いたわりあう心も生れて、みんなと一緒ならどんな踊り？もこなすようになりました。

地域参加を目的に結成したボランティア活動は十二年になります。毎週四日、施設の洗濯物たたみに励んでいます、昨年市長感謝状をいただきました。

老人クラブ活動の精神は、社会奉仕と自己啓発にあるように思いますが、人は一人では生きられないのだから、友愛活動は自分のためでもあります。可能なかぎり地域活動に参加していきたいと思っています。

やがて来る超少子高齢社会は、誰も経験したことのない未知の社会です。老人クラブはどのように変わっていくのか、いやしのある楽しい老人クラブで輝いて生きたいものです。

第一和楽会 の スポーツ

大宮台第一和楽会



第一和楽会では、会員の生きがいと、健康づくりのため、スポーツを励行しています。スポーツは、主として、スカイクロスとボッチャを実施しております。

スカイクロスは、平成十四年四月から毎月二回行い、春と秋に大会も実施致しました。その成果が、市老連の第一回と第二回大会において、優勝し、会員の士気を高めることができました。

また、ボッチャは、平成十五年四月から毎月二回行い、秋に大会も実施致しました。ボッチャは、女性に特に人気があり、毎回少なくとも、十数名以上が参加し、和氣藹々、会場から歓喜と笑い声が絶えません。平成十六年一月末に、北大宮台悠友クラブと交流試合を実施するまでに成長し、近隣クラブとの友好の輪を広げるよう努めております。

スポーツの効果か、平成十五年は、病で他界された方が皆無でした。スポーツで体力をつけ、病気の予防に努めることは、高齢者に課せられた、重要な努めではないでしょうか。

(会長 池端照男)

指導者研修会

高齢期・輝いて生きる

教養部 小関 澄子

平成十五年十二月十日、ジヤーナリスト村田幸子氏をお迎えして、平成十五年度指導者研修会が千葉市文化センタ―に於いて開催されました。

氏は、NHK解説員のご経歴のとおり落ち着いた語り口で講演いただきました。

高齢社会はとかく暗い印象が強い。高齢期には失うものが多く自分の位置づけさえも見失う時期です。

平均寿命は世界一だが健康寿命はどうか、私達の理想は最後まで健康でポックリが願望ですが、ポックリ寺の和尚さんでさえなかりになっていくというのが現実です。「高齢期を輝いて生きる」ためには最後までエネルギーレベル高く暮らすことです。

このための手段として一、精神的な自立 二、経済的な自立 三、家庭的な自立 四、健康的な自立をあげ具体的な事例を述べられました。

まず、自己決断ができる、女性が社会参加できる環境の整備、子供と高齢者は車の両輪として解決すべき問題、年金改革は世代間競争としてとらえ急激な少子化現象に歯止めをかけ、バランスのとれた人口構成が課題である。

人は生活を楽しみ、生活の中によろこびを見いだすための家庭的な自立を実行してほしい。

人生には三人の医者が必要、一番大切な医者は自分自身、つぎは身内や友人知人であり、最後が本当の医者です。健康

管理で医療費の無駄使いが阻止できる、WHO世界保健機構で健康とは、身体的、精神的、社会的に調和のとれた常態におかれている人の事と定義しています。心の「はり」があれば多病息災であっても健康だということです。

日本一高齢化が進んでいる山口県東和町を七年前に長期取材をしました。瀬戸内海に面した人口二三人（人口流出）の町、七〇%が六十五歳以上、ほとんど空家の状態だが、そこに住む高齢者の精神的自立度は非常に高い。町長の自慢は我が町の高齢者。

社会を担うのが高齢者なのだ。高齢者が貯えてきた経験、知識を社会に還元し、地域社会を活性化する、人に感謝する心、自分のよこび、生きるハリ、体を動かす、これが身体的、肉体的、社会的に調和のとれた東和町の高齢社会なのであります。

日本人は一步前に出ることに逡巡する、しかし、同じ人生なら未知との遭遇にチャレンジし、人生楽しく歩いていきましよう、わたくしの口車に乗って大きな落とし穴に見事落ちてしまつたら、どうやって這い出するか、その後の達成感、刺激的な人生の方が充実して楽しい、嵐の吹き去るのを待つばかりでなく、一步前に出てみる、楽しい思い出は沢山ある、しかし、思ひ出は耽るものではない、作り続けるものです。未知との遭遇を楽しむ人生を共に歩いていきましようと思はれました。

ご自身の大きな闘病を交えながら豊富な講演は、高齢期を輝いて生きる指針として、私達に深い感動をいただきました。



平成十五年度 第二回女性リーダー 研修会を終えて

中央区女性委員長 山田玉枝

去る十二月五日、千葉市

役所正庁にて女性リーダー研修会が開かれました。

今回は、事例発表として、五地区五名の方がリーダーとして頑張っておられる様子がよくわかり、素晴らしい

いものでした。

確かに、単位クラブの減少、会員の減少は問題ではありますが、皆、それぞれに、

今あるクラブの中で、高齢者ならではの知恵と経験を生かし、友愛の精神で努力されている様子が伝わってきました。

又、独居老人への『お元気ですかメール』や、八十歳以上の方を招待しての、『喜話の会』、

手芸の会での『干支』

の製作が大変好評を得ていること等、アイデアいっぱい事例は、各地区の生き生きとした活動ぶりを伝えてくれました。

そして、男女共同参画社会へ向けて、お互いの理解と意識

改革が必要なこと、この女性委員会が、諸先輩のご苦労の上にあることへの感謝の心、宮城県『一、一、一運動』を見習い、一年に一人が一人の会員をという気持ちで、会員増強をはかるということを確認して、研修会を終わりました。

大切なことは、なんのために研修会をするのかという事です。いろいろな意見を参考にして、積極的に取り組んでいく事で、また新しいアイデアが生まれます。いかにして研修会を実活動に生かしていくかを、おのおのが考え、魅力ある老人クラブ作りに役立てて欲しいと思います。

本年、十一月十日、十一日に、県と千葉市共催で行われる全国老人クラブ大会へ向けて、研修会を無駄にすることなく、一歩でも二歩でも前進して皆さんと一致団結して取り組んでいきたいと思ひます。

以上

かがやく太陽

宮崎に集う全国の仲間

気温差二十度、宮崎へ

十一月二十五日集合地海浜幕張駅は冷たい雨が風を呼んで気温六度、空港行きのバスを待つ十分余りで体温は急速にさがり、足もとは震えるほどだった。

家を出てから搭乗まで四時間くらいだったが、テロを警戒した厳しい検問にまごつきながら機上の人となつて、よつやく落ち着く。多少の揺れはあったが足摺岬の上空を過ぎれば白波寄せる日向灘が眼下に迫る。

予定通り十二時半宮崎空港着陸。宮崎の空は青く晴れわたり、ふりそそぐ太陽の光がまぶしかった。

大会を前にリラックス



大会を前に宮崎の風光にリラックスしようとする大会参加者にまじって青島に直行。厚着を着替える間もなく、日南

海岸の鬼の洗濯板を左右に見ながら青島神社の鳥居をくぐる頃は汗ビシヨリ。参道のお店の人に聞くと二十六度だという。東京から青島までは、四五〇キロ、時間にして僅か一時間の差である。

大会初日は研究部会

七項目の課題を研究する部会はフェニックス・シーガイア・リゾートのホテルに隣接するサミットとゴルフリゾートの七つの会場に分散、朝九時半の受付から午後四時まで審議が続けられた。

(研究部会レポート別記)

楽しみと元気をもらった 参加者交流の夕べ

参加者交流の夕べは大会第一日の夜六時半から、サミットホールで行なわれた。広いホールは千人近い参加者の熱気がいっぱい。会食、歓談のなかで、顔も知らない名前も分からない人達が胸につけたナンバーや名前を見ながら談笑を交わす、東から西から全国各地の銘酒や地元宮崎の麦配に顔を火照らす。楽しさと元気をもらった一時間の交流でした。

大会二日は総会と式典開催

総会は午前九時三十分からサミットホールで開催したが、これに先だってオープニングのコーラス「黒潮の子守歌」が宮崎市老連レインボーコーラス宮崎の皆さんによって



発表された。黒潮の子守歌は親と子のふれあいを深め、心の優しさを起こす手だてとして子育て運動にも

結びつけているという。

総会は議長団の選出の後、研究部会報告が全老連見坊副会長長によつて行なわれ、満場の拍手をもつてしめ括られた。

つづいて式典前のアトラクションはさすが神の国、伝説のふるさとにふさわしく、演ずるは高千穂町に伝承されている「高千穂夜神楽」と西都市に伝わる「下水流（しもずる）白太鼓踊り」だった。

高千穂夜神楽は天の岩戸に隠れた天照大神を誘い出すため、岩戸の前で舞ったのが始まりといわれ、国の重要文化財に指定されている。今回は代表的な「手力男（たちからお）の舞」「細女（うずめ）の舞」「戸取り

式典で表彰宣言

式典は十時四十五分開会、老人クラブ育成功労、優良老人クラブ、優良郡市区町村老連、永年勤続の各賞が贈られた。（千葉市老連関係は事務局により参照）

千葉で

お待ちしています

次回大会報告で県・市老連歓迎あいさつ

式典最後に次回全老連大会の千葉開催が報告され、野老千葉県老連会長、長谷川千葉市老連会長は壇上から「県市挙げての歓迎と決意表明」を述べ、満場の拍手に手を振って応えた。



大会宣言(要旨)

平成15年11月27日

明るい太陽がふりそそぎ、神話と伝説のふるさとである
ここに宮崎県に集う全国の老人クラブ代表は、さらに創造と
連帯の輪を広げた活動を推進し、次の事項の実践を誓い宣
言します。

- 一、高齢社会を支える仲間づくり、老人クラブづくりの推進
- 一、活力ある長寿社会を築く健康活動・友愛活動の充実
- 一、高齢者による次世代育成支援活動への参加・協力
- 一、若い世代と協同した心豊かな地域社会づくりの推進
- 一、社会保障制度の発展に向けた学習・実践・参画の促進

七研究部会、 重点課題審議

研究部会第一、第二、第

三、第四の各部会は事例発表
と質疑、助言の形で行なわ
れ、第五、第六はパネルデ
スカッションを中心に進めら
れ、第七は演劇活動等の実
演、活動状況が報告された。

各部会とも助言者、座長、
幹事、記録係によってまとめ
られ、総会において全老連見
坊副会長から総括報告が行な
われた。

助言者と市老連の参加者

第一研究部会 「健康をすす

める運動」の推進

助言者 順天堂大学名誉教

授 武井正子

参加者 市老連理事板倉清

隆、花見川区老連理事奥山

トシ子

第二研究部会 「在宅福祉を

支える友愛活動」の推進

助言者 城西国際大学教授

中村雪江

参加者 緑区老連女性委員

長小関澄子、中央区老連理

事長島愛子

第三研究部会 老人クラブ会

員加入促進の展開

助言者 島根大学名誉教授

北川泉

参加者 市老連理事来生

三、緑区菅田地区老連会長

徳田重雄

第四研究部会 広報でひろが

る活動―老人クラブからの
情報発信

助言者 武蔵野女子大学非

常勤講師小島セツ子

参加者 稲毛区老連副会長

廣居量一、美浜区老連女性

委員長田上安子、市老連主

事小林隆直

第五研究部会 男女共同参画

の推進―女性委員会の十年

とこれから

コーディネーター 川崎医

療福祉大学講師 兼子 久

参加者 市老連会長長谷川

省悟、稲毛区老連理事石原

康子

第六研究部会 老人クラブの

地域社会づくり

コーディネーター 西日本

短期大学副学長山口建蔵

参加者 なし

第七研究部会 演じる―創作

活動発表

コーディネーター 兵庫県

在宅保健師の会会長池脇正

子

参加者 市老連事務局長湯

浅孝史

第四部会の研究要旨

「広報でひろがる活動―老人
クラブからの情報発信」を課
題とする第四部会は、サミッ
ト三階の瑞祥の間において、
都道府県老連一六九名が参加
して開催。助言者に小島セツ



子さんを迎え、スタッフとし
て次の各氏があたった。

(座長) 別府市老連佐々木富雄
会長、神戸市老連竹入正視
事務局長

(幹事) 富山県老連平野正道事
務局次長

(記録) 仙台市老連高坂悦子活
動推進員

研究は発表された五例に対
する質疑、助言などで進め
られた。

なお、この部会では機関
紙、お知らせ、チラシ、ポ
スター、ホームページなど
を持ちより展示コーナーに
展示した。

事例発表の一

単位クラブの連絡情報伝達

(発表者) 松山市三町高齢クラ
ブ連副会長村上弘恵

1、年二回発行の「松山高連」

や「えひめ県老連だより」
を会員に配布、一部を町内

会の回覧板に使っている。

2、社会にアピールする活動

として愛媛新聞ポケット版
に投稿し、毎月一回地区の

情報を読んでもらっている。

事例発表の二

広報でひろがるクラブ活動の活性化と情報発信

(発表者) 福岡市奈多校区連合親和会会長濱崎良勝

1、連合親和会は会員二七七名、活動活性化のため広報部会を設け「親和会だより」を年六回、十一年間継続発行している。

2、部会は単位クラブから会長、女性部長合計八名で構成。開かれた広報部を目指し、編集内容により他の部会や地域の関係団体、公民館、学校等から出席を要請している。

3、発行費は一回三万円、年十八万円である。

因に会費は年千五百円である。

4、平成十六年一月からは「奈多校区だより」と改め校区の会員及び高齢者関係団体と巾をひろげることになった。

事例発表の三

広報活動と取り組みの現況

(発表者) 栃木県河内町老連広

報委員長三田和一

1、三四クラブ、会員一、三九九人で広報紙「長寿」は町老連創立四十年にして発行された。

2、編集方針、原稿集め、割り付け、校正等読んでもらえる紙面づくりに取り組み、地元紙も「お年寄りの活躍」と報道した。これまでにA4、一色、六頁だったが、七号から年二回カラー八頁となった。

3、広報委員には本部役員を任命し、役員会の後編集発行にあたっている。

編集方針としては原稿に年齢を入れる活字は大きく読みやすく原稿は「ました」調で写真は集合写真を多く取り入れる。配布は町役場、公民館、社協、保健センター、学校のほか特養ホーム等
今後の課題としては、投稿意欲の高揚、発行部数二、五〇〇部、年二回発行の再検討。

事例発表の四

市老連発行、テレビも活用

(発表者) 小松島市老連事務局 長吉尾さだえ

1、三五クラブ、会員二、八〇七人。市の広報紙に活動紹介、市民の理解を求めている。また県老連の「老友新聞」には、隔月で市老連活動を紹介している。

市老連誌「潮風」は平成十四年創刊、年一回発行。
2、社会にアピールする活動として、交通安全活動、施設訪問、演技等活動内容のテレビ紹介。

事例発表の五

老人クラブの情報を地域に伝える。

(発表者) 名古屋市中区老連常任理事田中すす子

1、クラブ数一六一、会員一〇、二三三人で校区老連、クラブではポスター、チラシなど町内掲示板に掲示したり、回覧に回したりして広報に務めている。
2、地域にアピールする広報活動
イ、地元のミニコミ紙「あ

つた・みなとホームニュース」に区老連の情報、行事など掲載して貰い、

老人クラブの存在をアピールするほか、加入呼びかけの広告掲載をした。

ロ、自治会の定例会には老人クラブの代表が出席したり、会員以外の対象行事として区内の「高齢者囲碁将棋大会」「健康づくり講演会」の一般公開なども実施している。

主な質疑とまとめ

1、徳島県の例として発表された広告で予算をとっている(五点位、一件五千円程度)広告利用について、他

にも広告は広告社に任せ、編集だけをしている例、久留米市老連のように病院などの広告集めをしている例について、「営利を目的にしない収入を発行費に当てることはかまわない」との座長発言があった。

2、千葉日報シルバー通信に

活動の無料掲載、えひめ新聞などローカル紙の協力を求める、岩手県老連の「孫たちへの手紙」で高齢者の体験を伝えるなど新しい課題を視点に入れた広報は社会に対するアピールとして取り入れることが望ましい。

ピラミッド型の情報発信、一つの団体だけでなく地域の社会資源として、横の情報発信は大切である。

3、変化についていくのは、むづかしい面があるが新しい課題を視点に入れた機関紙づくりに取り組みたい。

4、単位クラブの広報では特に噛みくだいた情報提供が必要だ。

こつそりと死亡する高齢者多発への情報、若い人たちが子供達との交流の情報発信は、単位クラブにとって大切である。広報の力は大きい。

他の研究部会の事例は紙面の関係で割愛しましたのでご了承ください。

お元気ですか



事務局だより

第二十二回 ゲートボール大会

九月二十六日、青葉の森スポーツプラザで開催

前日が雨天で中止になり翌日の開催となったため選手交代や欠場があったが三十八チームが参加し、混乱もなく激戦のうちに終了した。成績は次のとおり

優勝 新和大樹会(若葉区)

準優勝 新都(中央区)

第三位 土気久寿美A(緑区)

第四位 刈田子鶴寿会(緑区)

第五位 はまゆう(花見川区)

第六位 若松台万年青会

(若葉区)

なお、優勝及び準優勝チームは今年十月開催される第十七回全国健康福祉祭群馬大会に出場する栄誉が与えられた。

第二十四回芸能大会

十月八日 千葉市民会館大ホールで開催

各区老連から選抜された三十五チームが日頃の練習の成果を発表し熱心に演技した。

市長賞のこてはし連合「思い出の記」は生まれた時から老後までの人の一生を音楽劇とし演技はユニークで会場は爆笑の渦に沸いた。成績は次のとおり。

市長賞

こてはし連合(花見川区)

市議会議長賞

千葉寺老人クラブ連合会

(中央区)

社協会長賞

みのり会フラダンスレファ

(花見川区)

市老連会長賞

菅田団地健勝会(緑区)

第十六回 全国健康福祉祭徳島大会



十月十八日～二十一日徳島県に於いて開催

千葉市選手団一五三名、市老連からゲートボール、グラウンドゴルフ、囲碁将棋、社交ダンス、シンポジウムへ出場した。

十月十七日、新幹線で新神戸へ出発、新神戸駅から貸切バスで一路徳島へ。十八日開会式、翌日から各競技場で熱戦を繰り広げた。来年度は群馬大会である。

第九回 グラウンドゴルフ大会

十月二十八日青葉の森スポーツプラザに於いて三十三チーム参加で開催。

団体

優勝 文葉(稲毛区)

準優勝 菅田Aチーム

(緑区)

第三位 大宮台和楽会

(若葉区)

個人 男子

優勝 山科 勝禎

(中央区)

準優勝 笠原 肇

(稲毛区)

第三位 根本 三郎

女子 (緑区)

優勝 平野すい子

(中央区)

準優勝 櫻井ゆきの

(緑区)



第三位 日暮美代子

(緑区)

ホールインワン賞

(偶数ホールで)二十八名

第二回スカイクロス大会

十一月六日、川鉄体育館で開催

年齢や性別、体力に関係なくどこでも出来面白くて愉快なスポーツであることから会員から好かれていた。今回は第二回大会である。

り、十七チームが参加した。昨年の大会よりかなり技量も向上し、接戦となった。

団体

優勝 大宮台第一和楽会

(若葉区)



準優勝 白旗A(中央区)

第三位 若松台ふれあい広場

(若葉区)

個人

優勝 興梠 忠一

(若葉区)

準優勝 安西 芳夫

(若葉区)

第三位 豊永 秋男

(若葉区)

ふれあいの店

十一月の十四日～十六日
ラパーク千城台ショッピングセンターで開催

販売開始前から会場前で待っている人も多く人気商品はすぐに売り切れとなった。

作品も年によって変化があり、今年はビーズのアクセサリーが多かった。

第三十二回

全国老人クラブ大会宮崎大会

十一月二十六日～二十七日

宮崎市内で開催

初日は第一～第七研究部会に分かれ、事例発表。質疑、応答等熱心に研究を進め、翌日は約二千人参加のもと、シーガイアのワール



ドコンベンションセンター
サミットで総会及び式典が行われた。式典において全

老連会長表彰があり当連合会では次の団体・個人が受賞した。

団体

優良老人クラブ連合会

花見川区老人クラブ連合会

代表 荒畑 雅光

優良老人クラブ

稲毛海岸三丁目さつき会

代表 木藤 光輝

個人

育成功労

深山 太一

(千葉市老連副会長)

指導者研修会

十二月十日 千葉市文化セ

ンターで開催

演題「高齢期・輝いて生きる」

る

ジャーナリスト

村田幸子氏(元

NHKアナウン

サー)がご自身

の経験と豊かな

知識を基に講演

され、好評で

あった。

上半期主な行事予定(案)

(変更の場合あり)

- 4月12日(月) 監査
- 4月14日(水)～16日(金) 女性委員会研修旅行
- 4月22日(木) 理事会
- 5月14日(金) 全国健康福祉祭囲碁・将棋選抜会
- 5月26日(水) 第18回通常総会
- 6月8日(火) 歓送迎会
- 6月15日(火) 特選演芸会
- 7月8日(木)～9日(金) 会員研修旅行
- 7月14日(水) 民踊講習会
- 7月27日(火) マレットゴルフ大会(雨天時翌日)
- 8月6日(金)～9日(月) 作品展
- 9月14日(火) 民踊講習会
- 9月16日(木) 全国健康福祉祭ゲートボール選手選抜会(雨天時翌日)
- 9月29日(水) グラウンドゴルフ大会(雨天時翌日)



新年会

一月十六日 ホテルグリーン
ンタワ千葉で、百五十四
名出席のもと開催。会長、
来賓のあいさつの後、鏡開
きが行われ宴会に入る。踊
りやカラオケ、ビンゴゲー
ム等にぎやかに盛り上がり
お互いの懇親を深め、余韻
を残し閉会となる。



短歌

園生台寿クラブ

中川 敏子

大寒に可憐に芽吹くサクラ草
芯の強さを見習うべきか

手術終え海浜の波白々と

輝やく夕日じっと見つめる

運を呼ぶフォックスフェース求め
たし

愁い無き世に一縷の望み

港町第一君待会

田村富美子

転居あと土にたたずみ眺むれば

雨のくぼみに夕日が光る

みどりの水面に小鴨が遊ぶ都川

よき年来よと祈りぬ

櫻模様振り袖姿を仕あげたり

夢この絵に似る二十才の汝は

港町第二君待会

山田 登代

名は知らず摘みて押したる
におい草

白き小花を咲かせ散りしく

今が一番幸せなのと友は言う

何故か一諸に笑えぬ私

電話の音が優しくなりぬと娘らは

仕事離れし吾をかこみて

俳句

寒川地区 福寿会 二水会

葛きりの箸を逃げゆくもの思い

篠崎 敏子

だんまりで

ならぶ時雨のくじ売り場

山田 俊雄

吟行は二坪の庭福寿草

齋藤 達

むつみ鶴の会

高橋 平一

あらたまの槌を四方に祝ひ樽

舞初めや無双の槍の黒田節

初髪の酒注ぐ指に惚れなおし

白井地区みどり会

伊藤 辰雄

五月晴れ孫の矢車鯉のぼり

バラ園の香り家まで持ち帰る

振花に蜜があるのか黄色蝶

都賀の台シルヴァークラブ

大澤 良之

おらが春絵馬のお申のしたり顔

女正月否応なしのお留守番

禿白髪一病息災年始酒

稲毛区老連『草の実句会』

水田 勝二

煩惱の尻尾残して去年今年

札所寺若き尼僧の羽根を突く

ぼろ市で買う藍染の小風呂敷

鈴木 文平

寝ころべば窓の形に冬日射し

短日や振る磯竿は輝いて

去年の垢落し踏み入る初詣

高田 久子

新蕎麦や一期一会の旅の連れ
大熊手よろけて闇へ傾ぎゆく
山眠る一村呑みしダムの黙

早瀬 昭代

料理の本並べ姦し女正月
時雨傘橋の長きを振り返る
数え日や鉄の匂いの町工場

亀井 君子

短日や駄句を並べて日が暮れし
水仙花岬は潮と花の香と
春泥の將軍塚の下駄の跡

長谷部せつ

初詣拝む間もなく押し出され
短日や宅配人の忙ぎ足
茄子汁や気づけばいつか老いにけり

工藤のぶ子

参道に人影淋し花八つ手
水仙の出荷の朝の息白し
大輪の菊の鉢置く屋台店

千葉 照子

千葉寺の空埋め黄葉大銀杏
茸き替えの三州瓦に大西日
紅四葩庭の真中に腰を据え

第33回 全国老人クラブ千葉大会を 成功させよう!!

第33回全国老人クラブ大会が全国老人クラブ連合会・千葉県老人クラブ連合会・千葉市老人クラブ連合会の主催により千葉市内を会場に開催することになりました。

本大会では、「老人クラブ21世紀プラン」の方向を引き継ぎ、これからの老人クラブの重点的活動について研究を行い、全国の老人クラブ活動の発展と高齢者福祉の向上を期するものです。

千葉市老連会員皆様方の多数のご参加・ご協力をお願い致します。

平成16年11月10日(水)～11日(木)

会 場／研究部会 幕張メッセ国際会議場

総会・式典 千葉ポートアリーナ

日 程／第1日目 研究部会 10:30～16:00

第2日目 総会・式典 9:30～12:00

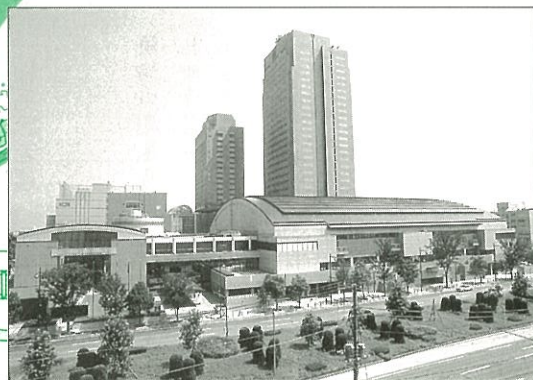
参加者／約2,000名



郷土博物館



幕張メッセ



千葉ポートアリーナ

第33回全国老人クラブ千葉大会実行委員会

(財)全国老人クラブ連合会

(財)千葉県老人クラブ連合会

(社)千葉市老人クラブ連合会

(広)

■輝くことを意識して活動したわけだけでなく、高齢者がイキイキとスポーツや芸事など趣味や学習に取り組んでいる姿やボランティア活動ぶりを見て、輝いているよと吹く人もいます。■この秋には全国老人クラブ連合会の全国大会が千葉で開催されます。都道府県市町村老連を代表する二千の参加者を暖かく迎え、中味の濃い大会になるよう県老連の皆さんと力をあわせ、太平洋の白波に輝く千葉大会を成功させましょう。

編 集 後 記

■広報二十号は「高齢期を輝く」をテーマに原稿募集したところ、どこの地区でも元気で楽しく活動している様子を伝えてくれました。

